



食べる力を適切に引き出す食事環境づくりと  
根拠ある観察、アセスメントのポイント



# 認知症高齢者の 食べる喜びを支えるケア

※講義時間：約2.5時間

4大認知症で異なる摂食・咀嚼・嚥下障害の理解、  
栄養状態の評価と食事ケアの実際を学ぶ

**山田律子氏** 北海道医療大学 看護福祉学部  
地域保健看護学講座(老年看護学部門) 教授

1992年に東京大学大学院医学系研究科修士課程修了、2002年に北海道医療大学大学院看護福祉学研究科博士課程修了し、博士(看護学)を取得。訪問看護や高齢者医療施設での実践や研究、老年看護学教育や認知症看護認定看護師教育に携わり、2009年より現職。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。『認知症の人の食事支援book 食べる力を発揮できる環境づくり』(中央法規出版 2013年)など認知症の人の食事支援に関する書籍や論文多数。各種講演など普及活動にも務めている。

録画配信

[視聴期間]

オンライン **約2週間** 21年11/1(月)から  
視聴可能になります。

※申込締切:21年12/6(月)

参加料 一般 **10,000円** 会員 **7,000円**

税込

※講義時間約2.5時間の録画配信セミナーです。  
※PC/タブレット/スマートフォンなどインターネット環境が必要です。

## プログラム

1. 「食べること」と摂食・咀嚼・嚥下機能の加齢変化  
(1) 人間にとっての「食べること」の意味  
(2) 摂食・咀嚼・嚥下のメカニズムと加齢変化
2. 認知症による食事への影響とケアの視点  
(1) 認知症高齢者の行動を理解するために  
(2) 食べない時の真意と認知症による食事への影響  
(3) 認知症高齢者の食事ケアの視点:環境づくりの重要性
3. 4大認知症と重症度を踏まえた  
食べる喜びを支えるケア  
(1) 4大疾患で考慮すべき摂食・咀嚼・嚥下障害の特徴  
●アルツハイマー型認知症、血管性認知症、  
レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症  
(2) 見直すべきケアや整えるべき環境  
(3) 認知症高齢者への食事ケアの実際
4. 終末期にある認知症高齢者への食事ケア  
(1) 終末期の経過と食事  
(2) 最期まで美味しく口から食べるために必要なケアスキル  
(3) 誤嚥性肺炎の予防
5. 認知症高齢者の栄養状態の評価  
(1) 高齢者の低栄養の特徴 (2) 低栄養の評価方法

このセミナーはホームページからのみの受け付けとなります ▶ 日総研 171760

関連雑誌

Web教材+季刊誌(定期刊行物・会員制)

個別ケア実現への具体策

## 認知症ケア

B5判 112頁  
入会金 3,000円  
年間購読料  
13,620円(共に税込)

秋号以降の特集

- 軽度～中等度認知症の人への適切なケア[秋号]
- 認知症の人の「食生活」を守る具体策[秋号]
- 認知症の人を支える家族への支援・サポート[秋号]
- 認知症の人の隠れたニーズに気づくコミュニケーション[冬号]
- 中堅・ベテランスタッフのモチベーションを高めるかわり方[冬号]
- 本人・家族の希望を実現する介護施設の看取りケア[冬号]

17年連続合格者数全国No.1!

厚生労働大臣指定 一般財団法人 日本総合研究所

## 社会福祉士養成所通信課程

4月開講! 募集要項はダウンロードできます

日総研 社会福祉士

## 日総研 接遇大賞

優れたサービス  
取り組みを表彰

応募は9月30日まで。発表は11月。

取り組み事例の紹介記事はこちら

接遇大賞

お問合せ TEL: 0120-054977 URL: www.nissoken.com

日総研